

会員だより

「造幣局の通り抜け」
に行きました

今年の施設のお花見は、「造幣局の通り抜け」でした。最初行事が発表されたとき、たくさん申し込みがあったのですが、みんなの話の中で、あの人出の中で果たしてみんなが無事に見物できるのだろうか、車椅子で大丈夫か、トイレは行けるのかなどの心配がささやかれ、この計画が無謀なものではないかという話まで出て、取り消しする人が続出しました。私は最初から参加するつもりでしたが、結局当日になって、参加者は私を入れて3名でした。3人も自立の人でした。



写真パネルが完成した

介護タクシーで造幣局の前まで送ってもらいます。想像していたようにたくさんの人出です。造幣局の前で

は今人気のコインセットを利なものがあった、つくづくいいなあと思いました。あつという間に出口に着きました。出口の駐車場に車が待っています。なんだか心配したのが無駄だったよな、あつけないほど楽な楽しいお花見でした。そのまま施設に直行、現地では無理なので、食堂で待っていてくれた、お花見弁当を美味しくいただきました。早速写真を印刷し、レイアウトの巧みなヘルパーさんの手をお借りして、見事な写真パネルが完成しました。



桜に囲まれた筆者

そうでなければ、この人込みでも見物は出来ないでしょう。桜の花は満開です。「長く立ち止まらないで、譲り合って」とアナウンスが流れます。私はヘルパーさんとはぐれないよう気を付けながら、カメラを構えて写真を撮りまくりました。人々でなかなか思うようにシャッターが切れません。花にはそれぞれ名前が付いていて「関山」「祇王寺妓女桜」などあり、今年の花に選ばれたのは「紅手毬」と言う濃いピンク色の花でした。枝垂桜も美しく満開でした。みんな花の前で写真を撮りま

なで花の前で写真を撮りました。やはり途中、3回ほどはぐれてしまいました。しかし心配はいりませ

気持ちは良い印象を受け

「だんろば山には狸がおつてさ...」あれ！どこか違ってるって？そう、小さい頃にこのように憶えてしまったので、丹波篠山と聞けば口ずさんでしまいます。ネットにも同調者がいたのでほっとしました。

新しい街に魅える

丹波篠山市

「だんろば山には狸がおつてさ...」

この街は今年5月1日から篠山市から丹波篠山市に変わります。市民の気持ちも新たなものか、爽やかな気持ちは良い印象を受け



大書院への入り口

て、観光してきました。周囲を山に囲まれた盆地の中に、城の風情を残す大書院と城下町の歴史的な建物や商家等が残っています。まずは市内中心部にあ

願いで平成12年(2000)に大書院が記録に基づいて復元されました。古式の建築様式や荘厳な装飾もすべて往時の雰囲気

その後、篠山市民の熱い願いで平成12年(2000)に大書院が記録に基づいて復元されました。古式の建築様式や荘厳な装飾もすべて往時の雰囲気



大書院 屋根は入母屋造木造住宅

市中の見所は、他に江戸時代の歴史と文化の史料展示の青山歴史村、下級武士たちの御徒士町(おかちまち) 武家屋敷、明治24年に建てられた日本最古の木造裁判所を改修された歴史美術館、大正12年に建てられた町役場をレストランと土産店に利用した大正ロマン館、900年の歴史を持つ陶器を展示した古陶器館、昔懐かしい雰囲気

の発祥の地になっています。

さており、特に金銀絵に囲まれた大広間は最近のいくつもの時代劇の撮影に使われる程豪華です。中庭には基石で江戸時代の建物跡が明記してあります。敷地の端に藩主青山家を祀る青山神社があります。この青山家の江戸藩邸のあった所がかの有名な東京青山通り



武家屋敷安間家資料館

街角で焼き立ての丹波栗と猪肉井を味わい、雑穀店で本場の丹波黒豆を買いました。昨秋収穫した自家畑の丹波黒豆より3倍くらい大きいので、今秋の収穫が楽しみです。

余談ですが心理学者の神様、文化勲章授章の河合隼雄氏の当身地という知的財産も自慢の一つに出来る筈。お節介ですが。



大書院の最も格式高い部屋「上段之間」

記・写真：上村サト子